

令和6年9月9日

令和6年度

第1回大田区総合教育会議会議録

大田区 総務部総務課

(午後4時00分開会)

○総務部長

それでは、定刻となりましたので、ただいまより、令和6年度第1回大田区総合教育会議を開会させていただきます。

総務部長の中澤でございます。

総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長が設け、参集する会議となっております。

本日は、教育委員の深澤委員がご欠席でございます。

これより会議の進行は、鈴木大田区長にお願いいたします。

○区長

大田区長の鈴木晶雅でございます。総合教育会議の進行を務めさせていただきます。

本日、皆様には、この総合教育会議を招集申し上げましたところ、お忙しい中にもかかわらずご参集を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日の会議につきましては、会議録作成のため録音させていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

まず、事務局から傍聴についての報告があります。

○総務課長

事務局を務めさせていただきます、総務課長の鈴木でございます。

本日は、現在のところ傍聴ご希望の方はいらっしゃいません。

○区長

それでは、会議を始めます。

初めに、大田区総合教育会議運営要綱第8条第2項において、会議録署名者は、私のほかに委員の中から会議において決定したものが署名しなければならないとされております。本日の会議の署名者は、小黒教育長にお願いしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○区長

それでは、小黒教育長を署名者といたしたいと思っております。よろしくお願いたします。

本日の議題について、事務局から報告をお願いいたします。

○総務課長

お手元の次第をご覧いただきたいと思っております。

次第の2番、本日、区と教育委員会の協議・調整事項として議題とするものは、一つ目として「国際教育の推進」、そして二つ目として「自分らしく生きるための学びの支援」の2点でございます。

○区長

それでは、議事を進行いたします。

総合教育会議は、冒頭、総務部長から申し上げましたとおり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長が設けるものとされている会議で、平成27年から開催しております。

会議では、私と教育委員会の皆様とが、教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策や児童・生徒等の生命・身体の保護等、緊急の場合に講ずべき措置についての協議・調整を行うことを目的としております。

区と教育委員会の連携を深め、より一層民意を反映した教育行政を推進してまいりたいと思います。

本日の協議・調整事項は、一つ目として国際教育の推進、二つ目として自分らしく生きるための学びの支援でございます。教育委員の皆様と幅広く意見交換をさせていただきたいと思っております。忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、それぞれの議題について、資料に基づき、担当の課長より説明をお願いいたします。

まず、議題1について、細田指導課長から、続けて議題2について高野学務課長から説明をお願いいたします。

それでは、まず、細田指導課長からお願いします。

○指導課長

指導課長の細田でございます。

私からは、国際教育の推進についてご説明申し上げます。資料1をご覧ください。

令和6年3月に策定された新たな区の基本構想とともに、第4期大田区教育振興基本計画である、おおた教育ビジョンもスタートしました。そのビジョンの中の基本方針1、「持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します」の個別目標2、「世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します」には、主な取り組みとして、「(1) 英語力の向上とコミュニケーション能力の育成～英語力に自信をもち、英語で積極的にコミュニケーションを図るこどもを育てます～」が示されるなど、国際教育を重視した施策を位置付けております。

本日、それらの取組の中で、今後、大田の教育の特色となるOGC、おおたグローバルコミュニケーションについてご説明いたします。

OGCの事業目的は、資料にございますように、国際都市おおたの実現に資する区独自の国際教育を推進し、英語での実践的コミュニケーション能力を着実に高めるとともに、異文化に対する理解など、多様性を認め合える心情を育成することでございます。

この目的に向け、「国際都市おおた宣言」を行った区にふさわしいグローバル人材を育成するため、英語でのコミュニケーション活動を大幅に増やし、英語で積極的にコミュニケーションを図るこどもを育ててまいります。

こうした学習を、小中学校の時代に行うことで、将来、世界的な課題について英語で外国人と議論し、課題解決を図ることができることを目指してまいります。そのためには、大

田区立小中学校で過ごす中で、基礎的な英語を学び、積極的にコミュニケーション活動を行おうとする資質を十分に養っていく必要がございます。

主な取組を説明する前に、昨年度の取組について、簡単にご報告いたします。

区における今後の国際教育のあり方について、モデルとなる学校として、外国籍の児童の割合が高いなどの理由から、大森東小学校を昨年度より国際教育推進校として指定いたしました。ここでは、全学年英語に関する授業を同じ教員によって統一した指導を行うために、専門の区の会計年度任用職員を採用すること。全ての英語に関する授業の中で、本物の英語に触れさせるために外国語教育指導員、いわゆるALTを増配置すること。圧倒的な没入感、臨場感の中で、その場面、状況で即興的に英語を用いてコミュニケーション活動を行うことができるプロジェクトマップングを環境として整備すること。学校で学んだ英語力を試す機会として、体験型英語学習施設、TOKYO GLOBAL GATEWAYにおける英語体験を実施すること。また、小学校低学年では、週2時間程度、英語に触れる学習を多くすることなどの取組を行っております。

こうした大森東小学校での成果を生かして、今年度からは羽田中学校を新たにおおた国際教育推進校として指定し、中学校における国際教育の推進について研究を進めているところでございます。

その成果を他校に生かす取組として、主な取組に掲げました五つについて説明いたします。

一つ目は、外国語教育指導員、ALTの配置を拡充することです。児童・生徒が本物の英語に触れ、ALTとともに、英語によるコミュニケーションを学ぶことは、目的の達成に必要なことであると考えます。

大森東小学校からは、特に小学校の低学年から本物の英語に触れることは、大変有効なことであるとの報告を受けております。また、ALTの配置について、これまで順次増加に向けて取り組んでまいりましたが、できる限り多く配置し、担当教師と共同して児童・生徒とともに学習を進めていきたいというふうに考えております。

二つ目は、東京都が運営している体験型英語学習施設、いわゆるTGGにおける体験活動を拡充することです。TGGにおける体験活動は、日常の学習で習得した英語力を活用して、エージェントと呼ばれる外国人とともに丸一日、もしくは半日、まさに英語漬けの時間を過ごしながら、英語のみでコミュニケーションを図ることに挑戦し、自らの英語力の課題や成果を見極め、様々な体験を通して課題解決を行う英語力を試す場であります。この取組により新たに英語に関する学習意欲を高めることができます。

現在小学校5、6年、中学校2年生の希望者に対して実施しておりますが、今後、より多くの児童・生徒に自身の英語力を試し、課題解決する場を提供していきたいと考えております。

羽田中学校は、本事業を全学年で実施し、生徒からは生きた英語を楽しく学ぶことができてよかった、非日常の空間の中で英語をたくさん使うことができた、もっと早く行きたかったなどの感想が聞かれました。

三つ目は、OGCルーム（海外体験ルーム）の設置を拡充することです。現在、大森東小学校に設置しておりますOGCルーム（海外体験ルーム）は、先端技術を用いて企業との共同研究により作成いたしました。この部屋は、より実践的なリアリティのある英語学

習が可能になっています。

今後成果の検証を進めながら、OGCルームを順次、他校に展開し、大田区ならではの英語学習を展開していきたいと考えております。

四つ目は、オンラインを活用した英会話学習を拡充することです。今年度で37回を数える大田区立中学校生徒海外派遣を行っております。区立中学校生徒の代表者が、海外での生活を経て、その成果を発表してまいりました。今後はその代表者による派遣時の経験に加え、派遣制度に選ばれなかった生徒たちに対して、派遣先の学校等と連携することを通じて、オンラインを活用した英会話学習を実施していきたいというふうに考えております。

このようにすることで、より多くの生徒が直接海外の同じような学年の生徒、学生と英語によるコミュニケーション活動を行うことができ、目的の達成に近づくものと考えております。

五つ目は、英語による会話を中心とした授業の研修を拡充することです。現在、ALT活用研修として、夏季休業期間中に小学校外国語活動研修、中学校英語教員授業力向上研修を行っておりますが、これを核として、より研修を充実させ、英語に関する授業改善を図ることで、目的の達成を目指していきたいと考えております。

これらの取り組みにより、中学校3年生の英検3級相当以上を達成した生徒の割合を増やし、将来世界的な課題について英語で外国人と議論し、課題解決を図ることができる姿を目指してまいります。

○区長

ありがとうございました。

引き続き、議題2を高野学務課長、お願いします。

○学務課長

学務課長の高野でございます。

私からは、議題2、自分らしく生きるための学びの支援についてご説明をさせていただきます。

まず、1、概要についてでございます。令和6年度からスタートしましたおおた教育ビジョン第4期では、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てますを理念に掲げ、個別目標5、自分らしくいきいきと生きるための学びの支援をしますにおいて、特別支援教育の充実を施策の一つとして定めてございます。

全ての児童・生徒が自分らしい生き方を見つけ、将来の夢や希望を実現するために、これからご説明申し上げます2点を基に、今後より一層、区の特別支援教育を充実させてまいります。

資料の左側、2、自閉症・情緒障害特別支援学級の開設についてをご覧ください。

自閉症や情緒障がいにより、在籍学級での学習に適応することが困難な状況にある児童・生徒の新たな学びの場としまして、令和6年4月に大森東小学校に大田区初の自閉症・情緒障害特別支援学級を開設いたしました。

小集団で学年相当の教科指導を行いながら、将来自立して社会参加する資質を養うため

の指導の領域である自立活動の時間を位置づけ、情緒の安定やコミュニケーション能力の育成を目指しております。

大森東小学校のこの学級には、4月に5名の児童が入級し、学級担任、介添員、非常勤講師、それぞれ2名の体制でございます。知的障害特別支援学級は1学級につき1名の介添員を配置しておりますが、自閉症・情緒障害特別支援学級は、より充実した支援体制が必要なことから、介添員を2名としております。

こちらの児童5名につきましては、自身の可能性を広げ、より成長するために日々学習や行事に意欲的に取り組んでいるところでございます。

今後の設置計画についてですけれども、小学校は通学負担等を配慮し、大森、蒲田、調布地域に各1校を設置予定でございます。

令和6年度の大森東小学校に続き、令和7年度は、嶺町小学校、そして令和8年度以降に蒲田地域の小学校を1校開設する予定でございます。

中学校におきましては、令和7年度に蒲田中学校に開設予定としておりまして、この後、段階的に開級の準備を進めてまいります。

続きまして、資料右側の3、（仮称）大田区特別支援教育推進計画の策定についてでございます。

こちらは、おおた教育ビジョンにひもづく個別計画としまして、ビジョンの目標5、自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します、の主な取組、（1）特別支援教育の充実、こちらを具体化し、特別支援教育を総合的かつ計画的に推進するための計画でございます。

計画期間は、来年度、令和7年度から令和11年度までの5年間で予定しております。今回の計画策定にあたりましては、検討委員会を立ち上げておりまして、小中学校の校長の代表、都立特別支援学校の教員、学識経験者、障がい者団体代表、PTA代表等の皆様に参画いただき、既に7月30日及び9月2日に2回の会議を実施いたしました。

こちらのスケジュールにつきましては、年内に計画の素案を決定し、年明け1月にこども文教委員会の報告とともに、パブリックコメントの実施、そして3月に計画案の確定、4月にこども文教委員会でご報告、公表の予定としてございます。

計画の理念につきましては、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、全ての学びの場における指導と教育環境を充実させることを目指しております。

施策の柱となります基本的な考え方としましては、資料の右下に記載のございます5点、多様な学びの場の機会の充実、学校における支援体制の充実、特別支援教育の指導の充実、切れ目のない一貫した支援、そして共生社会に向けた教育の推進、こちらの5点を、五つの柱を中心としまして策定を進めてございます。

児童一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を区として充実させることができるよう、そして障がいの有無にかかわらず、ともに学ぶインクルーシブ教育システムの構築を目指し、今回こちらの具体的な二つの取組を着実に進めることにより、特別支援教育の充実を図ってまいります。

○区長

ありがとうございました。

ただいま議題1及び議題2について、説明がありました。それぞれの課題について、委員の皆様にご意見を伺ってまいりたいと考えております。

大変恐縮でございますが、私から指名をさせていただきます。

まずは、三留教育長職務代理者から、ご意見をお願いいたします。

○三留教育長職務代理者

三留でございます。国際教育の推進、自分らしく生きるための学びの支援、両方について話したほうがいいでしょうか。

○区長

はい。続けてお願いします。

○三留教育長職務代理者

分かりました。

今年の6月に、文部科学省から「令和の日本型教育を推進するための地方教育行政の充実に向けた手引き」が出されております。そこには、教育のさらなる充実に向けて、首長と教育委員会との連携・協働の必要性が述べられております。今回、大田区の教育施策推進にあたって、総合教育会議で取り上げていただけること、ありがたく思っているところでございます。

国際教育につきましては、以前は「国際理解教育」という言い方が一般的でしたが、現在は「国際人教育」という意味合いが強くなってきたようにも思います。児童・生徒が、「国際都市おおた」の一員として、我が国や大田区の文化、良さを把握しつつ、国際人としての素養を身につけさせることが大切と考えております。

その一つとして、児童・生徒の言語力を高めることは、必須の課題となります。外国語の活用の能力を高めるために、大田区では、これまで様々な取り組みをしてまいりました。全国一律に行う学習指導要領の内容に記載のない、小学校1、2年の外国語活動にもいち早く取り組んできました。

授業における、ネイティブの外国語指導員の配置は、これまでもなされてきましたが、一層の充実が必要と考えております。特に、小学校低学年から外国語に親しみ、コミュニケーション能力を高めていく必要があります。

小学校においては、全ての授業に外国語指導員の配置がなされると良いと思っております。中学校においても、「聞く」「話す」の領域での課題が見られ、一層の配置の必要性が見込まれます。

小学校における英語専科につきましては、規模の大きい学校から配置されています。区費講師も含め、全ての学校で、より専門的な指導を受けさせたいとも考えております。

大森東小学校のOGC、おおたグローバルコミュニケーションについては、先進的な取組と思っております。OGCルームを活用した体験型英語学習など、こどもたちの取組の様子から、成果が上がっていると感じました。他校への設置、拡充の検討も進めてもらいたいと思っております。

体験型英語学習施設、TOKYO GLOBAL GATEWAYを活用したイングリ

ツシュキャンプも児童・生徒にとって貴重な体験になります。より多くの大田区のこどもが積極的に体験できるように、拡充の方向で検討をしていただければと思っています。

昨年度と今年度、教科書採択をしましたが、英語科については、大田区ではデジタル教科書も配布されています。デジタル機器を活用した英語学習は、一定の効果が見込まれます。区の施策としてのオンラインを活用した学習の推進を含め、効果的な活用の仕方について、一層検討を重ねていきたいと考えております。

言語指導のほか、大田区では中学校生徒の海外派遣、大田区在住の外国の方々との交流、姉妹都市をはじめとする世界の国々の学校との交流などの実践も進めています。今後の施策実施により、大田区ならではの多様な国際教育の推進に期待しているところでございます。

国際教育の推進については、以上でございます。

○区長

はい、引き続きお願いします。

○三留教育長職務代理者

引き続き、「自分らしく生きるための学びの支援」についてお話をさせていただきます。

議題として示された、「自分らしく生きる」ということについては、共生社会の中にあつての自分らしさということを念頭に置いておく必要があります。そういう意味で、大田区として、「インクルーシブ教育の構築システム」をしっかり挙げていることがよいと思っています。

「インクルーシブ教育システムの構築」にあたって、先ほど説明がありましたけども、5つの柱が示されていますが、その柱の中に、特別支援教育の指導の充実、多様な学びの場や機会の充実があります。大田区では、教育機会の多様な確保ということで、学びの多様化学校などの取組を他に先駆けて進めているところですが、特別支援教育において、自閉症・情緒障害特別支援学級を置いていることも特色になると考えています。

各学校にある発達特性等の児童・生徒の支援を行うサポートルームでも、課題克服のために多くの児童・生徒が取り組んでいます。それでも、なかなか成果が出ない児童・生徒に、自閉症・情緒障害特別支援学級は必要な学級となると思います。現在1校に設置されていますが、先ほど、拡充の説明がありましたけども、ぜひ、早期に実現をしてほしいと思っています。

サポートルームについても、現在、都の方針に基づいて実施していますが、自立活動の指導などの充実に向けて、教育委員会を挙げて取り組んでいるところでございます。

ただ、対象の児童・生徒の指導については、原則、巡回指導となっており週1、2時間程度にとどまっております。一人ひとりの児童・生徒の個別指導計画、内容の充実、時数増が求められると思っています。サポートルーム自体も本来の使い方ではないことが多く、支援員等が常時在中して、適切な指導、対応ができる体制が望ましいとも考えております。

そのほか、大田区では知的障害特別支援学級を状況に応じて増やし、個に応じた指導の充実と教育環境の整備に努めてまいりました。また、言語障害・難聴・弱視の通級による

特別支援学級もあります。特別支援教育に関わって、セーフティネットとなるような多様な取組を進めているのも大田区ならではの良さと捉えております。

また、特別支援学校、通常学級との交流など、様々な取組が進んでいます。笑顔とあたたかさあふれる大田区づくりを進める上で、インクルーシブ教育を念頭に置いた特別支援教育の充実が欠かせないと思っております。今後とも、課題意識を共有させていただいて、取り組んでいければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○区長

ありがとうございました。

それでは弘瀬委員、お願いいたします。

○弘瀬委員

まず、おおたグローバルコミュニケーション（OGC）の推進について、本年度からスタートしましたおおた教育ビジョンの個別目標2、施策1では、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やすとともに、「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能の総合的な向上、また、国際交流を通して豊かな国際感覚をはぐくむ教育の推進を掲げています。

「国際都市おおた宣言」を行った区にふさわしい区独自の国際教育であるおおたグローバルコミュニケーション（OGC）を推進し、英語での実践的コミュニケーション能力を着実に高めるとともに、異文化に対する理解など多様性を認め合える心情を育成する目的で事業を展開し進もうとしています。

国はグローバル化に対応した英語教育改革実施計画を2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、この計画に基づき体制整備等を含めて2014年度から逐次改革を推進していくことになっていました。

ここで、最近読んだ資料の中で、国際語学教育機関エデュケーションファーストの2023年調査で、非母国語の113カ国のうち日本人の英語力は87位でした。世界規模で考えても、英語力はかなり低いレベルにあり、グローバル化社会に生きるこどもの育成のための教育は待ったなしと考えております。

こどもたちの育成には英語学習の時間数を増やす、高度な英語指導力を備えた専科教員の人材確保と、さらに英語を母国語とした人材確保、ICTを活用した自己学習の充実、大田区立大森東小学校に導入した外国のまち並みや景色などをVRで映し出すOGC海外体験ルームの設置など、大田区の取組は非常によい取組と評価できています。

大田区の全体の英語力の水準を上げるためにも、大森東小学校での経験を生かし、ほかにも導入できることを期待しています。

また施策の中に豊かな国際感覚をはぐくむとあります。改正教育基本法及び改正学校教育法を踏まえ、改訂した学習指導要領において国語教育、歴史・伝統文化の教育、道徳教育の改善など日本人のアイデンティティに関する教育の充実を図ることが重要と考えています。これは、国際化を意識したときに必要な考え方と思っております。そのためにも、多くの学識経験者の導入も重要と考えております。

私は、グローバル化という世界規模を考えて展開する場面と、国際化、

Internationalizationという単語で示されるように、国家間を考えながら、コミュニケーションを必要とする場合があると思います。

大田区のこどもたちの未来に向けて、大田区ならではの施策を常に考えていく教育委員会の考えに賛同し、これからもそれを充実させていきたいと考えております。

次に、特別支援教育の充実について。おおた教育ビジョンでは、個別目標の5、「自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します」において、特別支援教育の充実を施策の一つに定めています。

今年度、大森東小学校に大田区として初めて自閉症・情緒障害特別支援学級を開設しました。新たに開設した支援学級では、定員8名に対して、学級担任2名、介助員2名、非常勤講師2名の配置となっております。

定員8名のところ、現在の在籍児童は5名でのスタートとなりました。児童をサポートする人員が、これで十分かどうかについては、今後、検証していく必要があります。

国の令和2年度学校基本統計では、全国で自閉症・情緒障害の児童は、約12万人ほど在籍していると言われております。在籍校での様子に関して不明ですけれども、特別支援学級を利用している児童・生徒は、年々増加傾向にあると思います。この統計から見ると、まだまだ十分とは言えない状況であります。大田区では、令和7年度に嶺町小学校と蒲田中学校に新設する予定となっているということです。ここで考えておかななくてはならないのは、児童・生徒をサポートする人員の確保と同時に、サポートする人の養成を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

例えば、医療の世界では、介護職の不足、看護師の不足など、職種によっては、養成する人材がもう既に人材不足に陥っている状況が始まってきています。教育現場においても言えることだと思います。

さらに、大田区では、インクルーシブ教育システムの構築に向けて5本の柱を基に推進していく予定です。このインクルーシブ教育推進のためにも、人材確保が大変になってくると思います。

さらに、ダイバーシティ教育の充実も今後、必要になってくるでしょう。特別支援学級をはじめ、インクルーシブ教育、ダイバーシティ教育など、児童・生徒の夢や希望を実現するために、大田区教育委員会は、児童・生徒の未来のために日々努力しています。大田区教育委員の施策に、今後も賛同していきたいと考えております。

○区長

ありがとうございました。

それでは高橋委員、お願いします。

○高橋委員

大田区教育大綱では、大田区の特色を生かした持続可能な社会をつくるための教育活動として「グローバル社会を生き抜く、国際感覚あふれるこどもを育てます」を掲げています。

おおた教育ビジョン個別目標2の重点目標に、「おおたグローバルコミュニケーション(OGC)の新設」があり、語学力を高め、主体性、積極性を持ち、異文化に対する理解

を深めるグローバル人材の育成及び自己肯定感を高めることを目的として、大森東小学校で授業が進められています。

大森東小学校OGCルームの授業参観では、ショッピングの学習でしたが、戸惑いながらも全員が会話しながら体験する様子を見ることができました。英語で積極的にコミュニケーションを取れる「使える英語」を身につけていること、映像による疑似海外体験を取り入れた学習など、OGC教育には期待するところです。

また、今年度から、おおた国際教育推進校として、羽田中学校が指定されました。その取組で、東京グローバルゲートウェイ（TGG）の英語体験をしましたが、緊張気味だった生徒も様々な体験をし、楽しく充実した取組ができたと聞き、環境づくりが大事だと思いました。

今後、他の小・中学校にもOGCルームを展開し、大田区ならではの国際教育により、グローバル人材を育成するよう願っています。

TGGにおけるイングリッシュキャンプは、現在、希望者による実施ですが、全員体験をすることで、英語への興味・関心を高め、英語力向上にもつながると考えます。これからの子どもたちに期待しています。

おおた教育ビジョンの個別目標5、「自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します」に基づき、教育委員会では、子どもを理解し、どのような支援が必要か、一人ひとりの子どもに適した環境を多角的に考え、また、保護者が我が子にとって最良の教育を考えられるよう支援しています。

知的障害特別支援学級は、入級児童・生徒の増加で、小学校では2校、中学校では1校新設され、小学校16校、中学校10校で指導支援をしています。

小学校言語通級学級についても4校設置していますが、希望児童が多く、入級まで待機の状態が長く続くことも多い現状です。

特別支援教室（サポートルーム）は、小学校では、平成28年度に18校の小学校を拠点校として全校に開設。中学校では、令和3年度から拠点校を4校として全校実施され、利用しやすくなってきています。

巡回指導担当教員が、各校のサポートルーム専門医、教職員と連携・協力して、子どもたちに合った支援をしています。今年度は、自閉症・情緒障害特別支援学級が大森東小学校に開設され、特別支援教育がより充実されてきたと、うれしく思っています。

また、地域から支援に前向きな話も聞き、これからの開設に期待するところです。

私も、青少対の活動の中で子どもたちをより理解するために、発達障害についての講義を何回か企画し、研修してきましたが、どういう状態なのか知ることができました。子どもたちを理解した指導が重要と考えます。特別支援学級介添員、学校特別支援員の配置を充実させ、特別支援教育のさらなる充実をお願いします。

○区長

ありがとうございました。

それでは北内委員、お願いいたします。

○北内委員

Thank you very much. Mayor Akimasa Suzuki. I'm Hideaki Kitauchi. Today, I would like to talk about, first of all, the enhancement of English education in elementary schools as well as junior high schools. Secondly, the inclusive social development of special needs education in both schools.

ここからは日本語で話します。

まず最初に、英語教育に関しては、平成 29 年（2017）年 3 月の新学習指導要領の告知から 3 年間の移行期間を経て、令和 2 年 4 月、今から 4 年前、小学校での英語教育必須化以来、本区での英語教育は着実に成果を上げていけると言えます。その一つの指標として、本区中学校 3 学年の英語検定 3 級以上を取得している生徒の割合は、平成 30 年度の 32.8%から令和 4 年度 53.8%、令和 5 年度 55.6%と 22.8 ポイント（約 840 人）増加しました。

また、令和 6 年度大田区学習効果測定結果からも英語に関しては、目標値（期待正答率）を上回る平均正答率となり、現場の教職員をはじめ教育長・教育委員会及び関係者が進めてきた教育方針が適切であることを示しています。

新学習指導要領告知の同じ年、同じ月に、本区は「国際都市おおた宣言」をしました。ここでは、英語で読みます。

Declaration of Global City Ota

-Launching into the world with the strength of our local communities-

Spreading our wings of hospitality, as a city with vitality and a wide variety of attractions, we welcome visitors from all over the world.

Spreading our wings of friendship, we will share with one another a diversity of cultures.

Accepting each other as individuals and allowing everyone to thrive, we will build a city filled with smiles.

Extending our wings into the future, we will pave the way for a prosperous tomorrow together. Fulfilling the expectations of the world with the skills and craftsmanship Ota is proud of, we will create new industry.

As the gateway to Japan, we declare ourselves "Global City Ota."

Bringing together the strength of communities, we will open up a new age, and launch ourselves into the world.

2017.03.12 Ota-city、と謳っています。

そして、おおた教育ビジョン 個別目標 2 「世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します」では、大田区は世界とつながる羽田空港を擁する唯一無二の自治体であり、平成 29 年に「国際都市おおた宣言」を行った区にふさわしいグローバル人材を育てていくことが求められます、と謳っています。

是非、これまで進めてきた英語教育を更に推進していただきたく存じます。

私は、PTA 会長・教育委員を拝命し、地元小学校・中学校出身で、区内各地域で活躍されている方に多く出会いました。大田区の魅力の一つだと思っています。成人後も育った地域で活躍され、国際的に活動されている方も多くおられます。素晴らしい街だと思って

います。街づくりの基本は、人です。人は、こどもから成長します。こどもに投資して無駄はないです。

次に、特別支援教育についてです。特別支援教育には、通常の学級に在籍して学ぶことができる特別支援教室（サポートルーム）及び言語障がい・難聴・弱視のこどもが学ぶ通級指導学級と、通常の学級ではなく独立した学級に在籍して学ぶことができる知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級、都立特別支援学級、病弱等の児童が学ぶ区立特別支援学校（館山さざなみ学校）がある。

本区では、これまでも障がいのある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、それに対応した適切な指導や支援を行う特別支援学級や特別支援教室（サポートルーム）等を設置し、個々の障がいの特性や発達の状態に応じたきめ細かな指導を行ってきた。

一方、社会からの特別支援教育へのニーズは高く、令和5年度の通級指導学級の児童・生徒数は153人、知的障害特別支援学級は491人、特別支援教室は1,202人となっています。また、令和4年度の不登校児童・生徒数は約1,290人で年々増加傾向です。

おおた教育ビジョン 個別目標5「自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します」では、障がいのある児童・生徒の将来の自立と社会参加をめざし、一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を充実させることが重要です。そこで、障がいのある児童・生徒と障がいのない児童・生徒がともに学ぶことをめざすとともに、一人ひとりの教育的ニーズに応じた多様な学びの場を整備するインクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・専門性の向上や校内における支援体制を充実させます、と謳っています。

是非、これまで進めてきた特別支援教育を更に推進していただきたく存じます。

そして、教育はもとより社会全体として、Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）を本区大田区で推進していただきたく存じます。

こどもも大人も一人ひとりが、笑顔で輝く街 大田区であってほしいと思っています。

○区長

ありがとうございました。

それでは、小黒教育長からもよろしく申し上げます。

○小黒教育長

まず、英語教育についてお話しさせていただきます。

私は、これからの社会を生きるこどもたちにとって、仕事をする上で、また、生活する上で英語を話せることは、ますます必要になってきていると思います。新たな基礎・基本の一つではないかと思います。

これまで英語教育については、幼少期は母語として国語をしっかり教えることが優先させるべきではないかという意見や、幼少期から英語の発音に慣れ親しむことが大切であり、早期から始めるべきなどという、英語教育を小学校で教科として指導することについては、いろいろな意見がありました。

その中で、令和2年度から小学校5、6年生においても、英語が教科化され、指導されるようになり、近年、こどもたちの英語力は、確実に向上しているように思います。

昨年度から英語教育を先進的に進めている大森東小学校の授業を見ると、大変こどもた

ちが楽しそうに英語学習に取り組んでいる様子が見られ、また、確実に英語を話す力が付いているように思いました。

英語の学習で期待することのまず第一は、積極的に話せることであると思います。私も中学校、高校、大学と英語を学んできましたが、英語で話し合うことについては、日常会話でさえ、なかなかおぼつかない英語力でございます。

先ほど、北内委員が英語でスピーチされましたが、何とか内容は理解できるのですが、コメントしたり、答えたりするという、そういう英語力は、なかなか自分でもないのかなと思っております。

文章においては、辞書をひいたりしていけば、意味は分かるのですけれども、やはり積極的にコミュニケーションを取るところについては、自分自身、課題があると思っています。

現在、中学校におきましては、英語で話すこと、話し合うことについて、授業改善のほうが進められています。昨年度から実施されるようになった中学校1年生から3年生までのスピーキングテストを見ると、まだまだ英語で話し合う力については、十分であるとは言えない状況がございます。

教育委員会としましては、ネイティブの英語を話すALTなどの外国人の講師の方を英語の授業に入れて、生きた英語に触れて話し合う機会を設けていますが、さらに、ALTを効果的に活かす、そういう場面を増やしていく。その中で意欲とスキルを確実に子どもたちに身につけていきたい、それが大事ではないかと思っております。

また、大田区の子どもたちが目指す英語力につきましては、世界のまた、社会の様々な課題について、外国の方とも英語で議論できるような英語力を目指していきたいと思えます。単に外国の方に道案内ができるなど、日常的な生活のやり取りばかりではなくて、世界や社会の課題について関心を持って海外の方とも議論し、意見の違いを乗り越えて解決を図っていくような英語力を養っていく必要があるのかと思えます。

そのためには、しっかりと国際社会に目を向けて、様々な課題に関心を持つ国際感覚がさらに豊かになるように、子どもたちを育てていく必要があると思えます。

大田区には羽田空港があって、国際都市としての発展や人材の育成が必要になってきております。また、求められております。羽田空港から世界に飛び立って活躍できる人材、世界的な視点・視野で社会の発展に力を発揮できるような人材。

そして、国際感覚を持って積極的に英語で海外の方とも協働できる、そういう人材に子どもたちを育てていければと思っております。

そのためには、世界的な視野で考える力を持った子どもを育てることも英語力と同時に、大切な英語教育の内容ではないかと思えますし、それを充実していきたいと思えます。

続いて、特別支援教育について、自分らしく生きるための学びの支援について、意見を申し述べさせていただきます。

大田区では、特別支援教育の充実について、着実にその歩みを進め、成果を上げてきていると思っております。現在、大田区特別支援教育推進計画の策定、先ほど、お話がありましたけれども、取り組んでおりますが、さらに、その充実を図ることが大切であると思えます。

私は、障がいのある子どもたちに対し、その子のニーズに応じた個別・最適な学びを主

とし、自立に向けて実践していくということが、非常に大切だと考えております。そのためには、まず、こどもたちへの理解、それから、障がいへの理解を深めていくことが大切であると思います。

私は、3年ほど前、久原小学校のわくわくスクールで書道家の金澤翔子さんが大きな筆で揮毫されたときに、お母さんのお話を聞いたことがございます。翔子さんとお母さんがひどく落ち込んでしまった時期もあったと伺っておりますが、翔子さんは、お母さんを喜ばせようと一生懸命に書道に打ち込んだそうです。

また、翔子さんが書き始める前に手を合わせてお祈りするようなどころがあるのですけれども、これは、亡くなったお父さんに、今回も上手に書かせてくださいとお願いをしているそうです。そのような話を聞きました。

また、翔子さんは、真剣に筆を動かすときの気迫と動きは、もうすばらしいものがあります。それとともに、書を書き上げた後、集まったこどもたちを喜ばせようとマイケル・ジャクソンの衣装を着てダンスを踊っておりました。

私は、そのときの翔子さんの筆を動かす姿と、マイケル・ジャクソンでダンスをして、こどもたちを喜ばせようという、そういう翔子さんは、純粹で無邪気な心を持った人なんだなと思い、また、お母さんの翔子さんへの思いや思いの深さ、それから、ご苦労を直に感じることができました。

恥ずかしい話ですけれども、私は、そのとき初めて、翔子さんやお母さんについて、少し理解が深まったのか、理解することができたのかなと思いました。障がいのあるお子さんや保護者の思いや願い、状況や環境について、しっかりと理解したときに、血の通った支援やその子にとってかけがえのない自立に向けた指導が始まるのではないかと思います。

特別支援教育については、個別指導計画や個別支援計画など、自立に向け、一人ひとりの教育ニーズに応じた指導のための様々な取組がありますが、それらを生かした特別支援教育ができるよう、取り組んでいきたいと思いました。

また、私は、周りの人たちの偏見のない理解と協力が、とても大切だと思います。そのため、周りの人たちが特別に支援を要するこどもたちについて、理解を深める交流の場をさらに充実することが必要であると思います。

私は、入新井第一小学校の校長をしておりましたが、通常の学級のこどもたちが、特別支援学級や通級のこどもたちと交流する機会がたくさんあって、その中で通常の学級のこどもたちが、分け隔てなく活動する様子を見る機会がたくさんございました。行事など、特別活動や日常の学習の中で一緒に活動することで、違和感なく友達として受け入れ、必要な配慮をしていくこどもたちの姿を見て、日頃の交流がいかに大切であるかと感じました。

鈴木区長は、あたたかさ笑顔あふれる大田区をつくり出していくことを目指しておられます。基本構想でも、将来像に心やすらぎ、未来にはばたく笑顔のまちを掲げておられます。私としましては、障がいのあるこどももない子も、どの子も夢や希望を持って未来を切り開いていける、そのようなサポートができる教育の実現に向けて、教育は教育として専門性を高め、区の様々な皆様と連携しながら、特別支援教育を推進するように努めていきたいと思っております。

○区長

それぞれにご意見をお聞かせいただきまして、ありがとうございました。

三留委員からは、総合教育会議でのこうした首長と教育委員会の連携・協働は、非常に大事であり、議題1では、国際人教育の意味はますます強くなってきているということで、国際的に活躍できる人材をこれからは育てていかなければいけない。体験型学習の成果に期待をし、具体的に始まりました大森東小学校のOGCルーム、そしてTGGの学習を評価していただきました。議題2では、インクルーシブ教育システムを構築していく重要性、また、本年度、自閉症・情緒障害特別支援学級の開設をより充実の方向に持っていつてもらいたいという期待感もお示しいただきました。また、各学校の支援を行うサポートルームの内容充実などにも期待したいといったことも、お触れいただいたところでございます。やはり障がいのあるお子さんが自分らしく生きるんだと、こういったことが大事であり、しっかりサポートしていければと感じさせていただきました。

弘瀬委員からは、まだまだ世界的に見て日本人の英語力は低いと、国際的に見ても87番目だというような現状もお示しいただきました。議題1では、グローバル社会を生きる子どもたちのために英語教育は重要であり、学習時間増、教員の確保が大事だにご指摘いただきました。そして、大森東小学校のOGCルームをご評価いただき、横展開に期待していきたい、このようにお話をいただきました。また、議題2では、本年度、大森東小学校に大田区初の自閉症・情緒障害特別支援学級が開設されたことをご評価いただきました。自閉症・情緒障がいの児童は、年々増加しているので、現状の人員配置では十分とは言えない。教員の確保やサポートする人員を拡充していくべきではないかにご指摘もいただきました。大事な視点だと思っております。

高橋委員からは、議題1、大森東小学校のOGCルームを評価いただき、横展開を期待したいというお話をいただきました。また、TGGのイングリッシュキャンプは、現在希望者のみで実施されているところ、全員体験できることで英語力向上につながるのではないかというご指摘もいただきました。議題2では、特別支援学級の設置状況、自閉症・情緒障害の児童は年々増加しており、本年度、大森東小学校に自閉症・情緒障害特別支援学級が開設されたことによって充実してきている。そして、ご自身の体験・経験からも、青少年、地域の立場として子どもたちを理解した指導が重要であるにご指摘いただきました。

北内委員からは、すばらしい英語で区の英語教育の成果を評価いただいたところでございます。まちづくりの基本は人である、子どもへの投資は無駄ではないということを議題1でお示しいただきました。議題2では、特別支援学級の設置状況について児童・生徒の通級状況をご指摘いただいた上で、障がいのある児童・生徒の将来の自立と社会参加を目指し、個々のニーズに応じた特別支援教育や校内支援体制を充実していくべきである。教育はもとより、社会全体で多様性、公平性、包括性を区で推進していくべきであるということもご指摘いただきました。

教育長からは、議題1、議題2に関し、これまでの様々な体験・知見を生かされた幅広いご意見を頂戴いたしました。特に、私は議題2で教育長がお話しになりました、やはり周りの人々と通常の学級と交流の場をもっともっと増やしていつて、偏見のない、そういった教育をしていくことが大事にご指摘をいただいたことに、私自身も共鳴をさせていただいたところでございます。

それぞれ、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえて、令和7年度の予算をぜひ検討をさせていただきたいと思っております。

教育委員会のほうから、ここまでのところでご意見はございますか。
よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○区長

それでは、委員の皆様より、大田の教育に関する様々な思い・ご意見をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。

本日、いただきました意見につきましては、引き続き、私と教育委員の皆様で情報の共有を図り、大田の子どもたちが、力強く元気で生き生きと成長できるように力を尽くしてまいります。

今後とも、区の教育政策の推進につきまして、委員の皆様のご尽力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

○総務部長

それでは、本日の会議は、これをもって閉会とさせていただきます。

次回、開催の運びとなる場合は、改めてお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

(午後5時04分閉会)